

ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 70

June 2008

ロシア史研究会 2008年度大会案内

ようこそ愛知県立大学へ



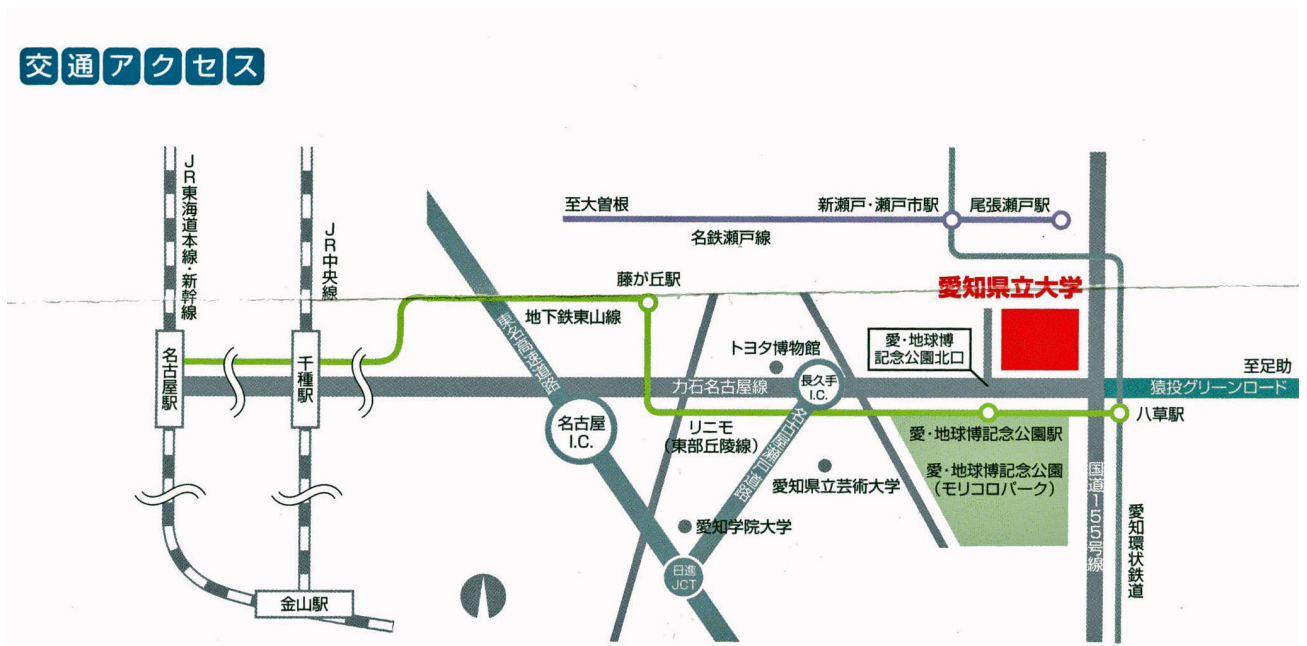
(愛知県立大学学術交流センター(10月11日の予定会場))

昨年の総会において、2008年度のロシア史研究会大会会場校は、四年に一度は地方で、という慣例に従って、愛知県立大学に決まりました。しかしまもなく、ロシア文学会、ロシア・東欧学会、JSSEESの年次大会が、奇しくも同時期に名古屋で行われることが判明いたしました。そこで、ロシア文学会を除く三学会の代表が年初来、数回にわたり青山学院大学で共同の企画が出来ないかと話し合い、10月12日(日曜日)の午後に、名古屋学院大学において、三学会合同の共同シンポジウムを開催する運びとなりました。

ロシア史研究会は、初日の10月11日(土曜日)に自由論題および共通論題、総会と懇親会を予定通り愛知県立大学で行い、二日目の10月12日(日曜日)は、名古屋学院大学に会場を移し、午前中は、会独自のパネルを設け、午後は、三学会共同のシンポジウムと合同の懇親会を催すこととなります。その後、ロシア文学会にも共同シンポジウムへの参加を呼びかけたところ、前向きに考えるという回答がありました。10月12日は、おそらく日本のロシア・東欧関係の研究者が一堂に会する希有の機会となることでしょう。詳細は、9月のニューズレターでお知らせいたします。今回は、会員各位のスケジュール調整のために、とりあえずのアウトラインと暫定的なプログラムをご紹介します。

(大会準備委員：加藤史朗)

11日（土）の会場 愛知県立大学学術交流センター



地下鉄東山線終点「藤が丘」駅（名古屋駅からの乗車時間 25 分）から
リニモに乗り、「愛・地球博記念公園」駅（乗車時間 14 分）で下車、徒歩 5 分

※愛知県立大学は、愛知万博が行われた場所に隣接しています。会場跡地は、現在、「愛・地球博記念公園」（通称モリコロ・パーク）として公開されており、いくつか食堂があるようです。モスバーガー(児童総合センター西)/森のレストラン(プール 2 階)/スローライフガーデン(児童総合センター内) などです。また、リニモで一駅（公園西口）の所に「安江」という蕎麦屋があります。しかし、往復の時間と混雑による待ち時間を考えると、昼休みをはみ出してしまう可能性があります。基本的には大会直前の出欠照会の葉書で、弁当の予約をするか、ご自分で昼食のご用意をされることをお勧めします。

※なお宿舎については、公共の宿やビジネス・ホテルなど各自で適宜ご予約下さい。三連休ですので、早めにご予約ください。ロシア・東欧学会は、JTB に依頼し、グレードの高いホテルを案内しています。その申し込み用紙も同封いたしますので、適宜ご利用ください。

12日(日)の会場 名古屋学院大学白鳥学舎 曙館 名港線「日比野」駅から徒歩6分



※ 詳しくは、同大学のホームページを参照してください。 <http://www.ngu.jp/index.php>

「3+1」70周年のモスクワ

富田 武 (成蹊大学)

去る3月18-19日にモスクワで開かれたAIRO(20世紀ロシア社会研究者協会:会長ボルヂュゴーフ)主催の二つの集会に参加した。18日はAIRO創立15周年記念パーティだが、それはAIROの最大の協力者スティーヴン・コーエン(ニューヨーク大学)、カール・アイメルマッハー(ルール大学)、そしてわが和田春樹の生誕70周年(日本流には古稀)を祝う会を兼ねていた。彼らが生まれたのは1938年、即ちニコライ・イヴァノーヴィチ・ブハーリンが見せ物裁判にかけられた末処刑された年でもあり、翌19日は彼の死後70年、そして名誉回復20年を記念する会が開かれたのである。日本からは和田春樹、あき子夫妻と私が参加した。

18日のパーティは全ロシア国立外国文学図書館(地下鉄タガンスカヤ駅から徒歩10分)で行われた。編集長のマカロフ(ショーロホフの専門家)がAIRO15年を振り返る挨拶をした後、「トロイカ」の祝賀は各1名の紹介者と本人の挨拶という形で行われた。和田教授の

紹介はザハーロヴァ教授（モスクワ大学）で、共通の師ザイオンチコフスキー、1993年ロシア史研大会で来日した折に見た和田シュレーについてであった。

和田教授の挨拶は大要、以下の通りである。「ヴェーラ・フィグネルが65歳で十月革命を迎えたように、自分たち3人は53歳でソ連崩壊に直面したが、こうした事件の目撃者となれたことを歴史家として喜ぶとともに、説明の義務を負うことにもなった。当時はテレビによく出て解説したため、今でもタクシーの運転手さんに覚えていてもらっているほどである。あれから月日が流れて、自分は引退した老俳優のように感じることもある。フィグネルが大テロルに直面したのは85歳、その年まで生きられるかは分からないが、愛すべきロシア国民と人類のよりよき、よりヒューマンな未来を願ってやまない。私も記憶力と知力の限り研究し続ける。」

19日のブハーリン記念集会は、モスクワ市公文書管理局中央モスクワ個人コレクション文書・博物館とAIROの共催で開かれた。前者はブハーリンの遺族から文書その他を寄贈されており、このたびは集会場所を提供した（地下鉄カール・マルクスカヤ駅のすぐ側）。基調報告に当る発言をしたのは *Bukarin and the Bol'shevik Revolution*（1973年、塩川伸明訳）の著者コーエンである。主旨は「歴史におけるオルターナティブ」で、ブハーリンに即して言えば戦時共産主義、ネップ、全面的集団化、1934年の緩和、そして反ファシズムと、人間的な社会主義に進む5回の可能性があったというのである。彼は最新の著作でも、ロシア・ソ連史における改革不可能論（*teoriia nereformiruemosti*）を批判しており、それを一貫して主張してきた点がペレストロイカ期に高く評価され、その後もロシア知識人の中に根強い支持者を得ている所以である。

これに続く発言の中で聴衆の心を打ったのは、言うまでもなく遺族の発言である。ブハー

リン最初の妻のお孫さん、二度目の妻（アンナ・ラーリナ、回想はわが国では和田あき子訳）のお嬢さんの涙ながらの話であった。遺族以外では老歴史家ポリャコフ、老戯曲家シャトローフをはじめ多数の発言があったが、印象に残ったのはバブーリンとロイ・メドヴェージェフである。バブーリンは、ゴルバチョフに反対した保守派の論客として有名だったが、ブレジネフ末期の1978年にコムソモール員としてブハーリンの名誉回復を党中央に訴えたという。老メドヴェージェフ（82歳）はコーエンに反論するように、ロシアではブハーリンは忘れられた人物ではなく、9年生（と聞こえた）用の教科書に5カ所も出てくることを指摘した。また、ブハーリンの「豊かになろう」は、中国では鄧小平が「先富論」を唱えて貧富の格差をもたらしたが、農民の自立を促し、社会的公正と不可分なものだったという穏健社会主義者らしい解釈を示してみせた。

集会はややノスタルジックな雰囲気が高齢者の元気な発言が目立ったが、多くの歴史家やアルヒヴィスト、プブリツィストが参加し、真摯に自国の歴史の見直しに取り組んでいることが感じられた。

※一般公開のために、一部削除編集を加えました（2018年10月14日）。

新委員会の構成 前号でお知らせした新委員に雑誌編集担当に2名の追加補充がありました。

委員長：土肥恒之

事務局・事務局長：鈴木義一 ・総務：野部公一 ・会計：崔在東

・名簿：半谷史郎 ・ニューズレター：梶 雅範

雑誌編集：中嶋毅（編集長）、立石洋子、根村亮、巽由樹子

企画：加藤史朗、加納格、サヴェリエフ・イゴリ（大会担当） 例会：内田健二

新委員会の紹介（補充分） 所属 ②連絡先 ③専門分野 ④抱負 ⑤各担当事項に関する連絡

根村亮（雑誌編集担当）

⑤投稿の可能性がある人がおられたらご紹介して下さい。

①新潟工科大学

巽由樹子（雑誌編集担当）

②

③ロシア近代文化史

①東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

④編集担当委員は15年以上前にやった記憶があるのですが、当時の経験はもう役に立たないでしょうね。中嶋編集長の足をひっぱることなく、少しでもお役に立てればと考えています。

②

③近代ロシアの出版メディアと読者

④初めてで右も左もわかっておりませんが、努力したいと思います。

⑤会誌の円滑な発行のために働きます。よろしく お願いします。

ロシア史研ニューズレター
第70号 2008年6月25日発行
編集・発行 ロシア史研究会委員会
〒183-8534
東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学外国語学部
鈴木義一研究室気付